（別紙様式）

令和５年度　赤穂市学校（園）評価　外部評価

学校園名	赤穂市立高雄小学校

１ 本年度の学校（園）経営方針

「豊かな心」と「確かな学力」を身につけ 自立する児童の育成　～夢や目標に向かって～
（1）児童全員が学ぶ楽しさ、『できた・分かった』を実感できる学校
（2）人権尊重の精神を基盤とし、いじめのない安心できる学校
（3）ふるさと高雄を愛し、家庭・地域と共に歩む学校

２ 本年度の学校（園）重点目標

（1）共に生きる心を基盤とした特別支援教育の充実
（2）人権尊重の心を育てる人権教育の推進
（3）基礎・基本の確実な習得を図り、個性や創造性を伸ばす学習指導の充実
（4）将来を見据えたキャリア教育の充実
（5）教職員の指導力・専門性の向上を図るための研修の充実
（6）心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実
（7）児童の道徳性を高める心の教育の充実
（8）安心・安全教育の推進
（9）地域とともにあるコミュニティ・スクールの推進

【総合的な学校園関係者評価】

・なかよし班の縦割り活動で、上級生としての自覚をもち、リーダーシップを発揮できる機会を作る取組は、大変よいことである。
・行事の際にＰＴＡの父親が不参加の場合が多いので、参加できる機会を多く作ってほしい。
・コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な行事が行えたことがよかった。
・コロナ前に行っていた行事を徐々に復活してもらいたい。
・音楽会への幼稚園児の招待は年長児が学校の様子をうかがい知るよい機会となるので復活してほしい。
・小規模校ならではの特色ある学校づくりを目指しての取組が学校行事、日々の教育活動、学校だより、ホームページ等からよく理解できる。
・学校を中心とした元気な地域づくりのために、各々が知恵を出し合い、協力しながらコミュニティ・スクールの取組を推進していきたい。
・新聞報道等メデイアを取り込んだ学校ＰＲを積極的に行い、多くの方々に情報の発信、提供を行うことで、支援がいただけるとよい。
・授業中の児童のきらきらとした眼を見て、先生と児童の会話がしっかりとできているのだろうと推察できた。また、掲示物が大変よかった。

３ 自己評価結果 （A～D） A：達成した　B：ほぼ達成した　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった　◎：適切である　○：ほぼ適切である　△：あまり適切でない　×：適切でない

観点（重点目標）	評価項目（学校園・教師の取組）／評価指標および目標値（期待される姿）		評価資料	達成状況	本年度改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
(1)特別支援教育	項目	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	A	A	(1)啓発活動(保護者･地域への情報提供と情報収集)を計画的に行う。 (2)関係機関との連携を図り、組織として対応する。 (3)特別支援の考え方を全学年の日常生活や授業に取り入れる。	◎	○	○普段から児童の様子を注意深く見取り、スモールステップで目標を達成できるよう全職員で支援する。 ○子ども、保護者や地域への啓発活動については、共通理解を図り、繰り返し地道に取り組んでいく。 ○児童理解研修や教育支援委員会、特別支援教育校内委員会の充実を図り、情報を共通理解して指導に当たる。
	指標	一人一人の教育的ニーズに応じた指導がなされている。						
	項目	適切な就学指導	A					
	指標	校内委員会を設け関係機関との相談を実施し、適切な就学指導に努めている。						
	項目	指導方法や指導体制の充実	A					
	指標	校内委員会・特別支援教育研修をもつことができている。						
(2)人権教育	項目	人権尊重の心を育む	A	A	(1)教師の人権意識を高める研修会をもつとともに、家庭や地域への啓発を行う。 (2)特別活動を始めとする学校教育全体で、自己有用感を高める教育活動を充実させる。	◎	◎	○教師は人権意識を高めるための研修会に参加し、見識を深めることができた。ＬＧＢＴＱ＋、ヤングケアラー等の課題について、チラシや学級懇談会等を活用して、家庭や地域への啓発を図る。 ○なかよし班をはじめとする縦割りの活動では、常に最高学年が手本を示し、目標や振り返り等を言葉で表現する機会を多くもつ。
	指標	児童一人一人を大切にした授業、命と人権を守りいじめや不登校を解決する取組に努めている。						
	項目	自尊感情を育てる	A					
	指標	日々の教育活動やふれあいの中で、自分に自信のもてない児童に、自尊感情を育てる指導がなされている。						
	項目	自己実現をめざす	B					
	指標	児童に、学習で学んだ事を自分の生活にどう活かせるか考えさせようとしている。						
(3)基礎･基本の定着と自ら学び考える力の育成	項目	指導内容・指導方法の工夫、改善	A	A	(1)研修会に積極的に参加し、学習形態や授業展開を工夫して、子ども同士の関わりや授業の深化を図る。 (2)ＩＣＴ機器の効果的な活用と日常的な実践を行う。 (3)宿題の出し方を工夫し、家庭と連携し自主学習に取り組めるようにする。	◎	◎	○Ｔタイム（朝の基礎基本の時間）を有効活用する。毎日の小さな積み重ねで力をつけていく。 ○担任だけではつまずきの解消は難しいため、専科教員との連携を図る。担任が見通しをもってプリント学習等の計画を立てる必要がある。 ○ＩＣＴ機器の積極的な活用及び研究を引き続き継続していく。また、紙媒体を併用することで、より効率的に学習理解を深めるようにする。
	指標	基礎基本の定着をめざし、Tタイムの時間を活用している。						
	項目	個に応じた指導の時間確保	A					
	指標	新学習システムを推進し、個に応じた指導を工夫している。						
	項目	主体的・対話的に学びを深めようとする授業の工夫	B					
	指標	学習課題について、主体的･対話的に学びを深めるための授業研究を進めている。						
(4)キャリア教育の充実	項目	積極的関心の形成・発展	A	A	(1)研修会に積極的に参加し、キャリア教育の基盤となる基礎的・汎用的能力育成のためのスキルを培う。 (2)兵庫版「キャリア・パスポート」及びキャリアノートを積極的に活用した組織的な取組を充実させる。 (3)保護者や地域の人々、関係機関等と	◎	◎	○キャリア教育に係る校内研修の場を設け、基礎的・汎用的能力育成のための理解を深める。 ○兵庫版「キャリア・パスポート」及びキャリアノートの使用は確実にできている。今後は、その内容を更に深めていく。 ○ハマウツボをはじめとするふるさと高雄の植物について知る環境体験や稲作体験、漁業体験以外の体験活動を
	指標	自己及び他者の大切さに気付き、まわりの人に積極的に関わろうとする能動的な態度を育てている。						
	項目	仕事や環境への関心・意欲の向上	A					
	指標	身のまわりの仕事に気付き、そこで働いている人の気持ちや願いを知ろうとする意欲や態度を育てている。						
	項目	夢や希望、憧れる自己イメージの獲得	B					
	指標	将来なりたい自己の姿を描き、目標をもち、できうる最大限の努力をする意欲や態度を培っている。						
	項目	目標に向かって努力する態度の育成	A					

	指標	勤労を重んじてできることを進んでしようとする意欲を高めている。			連携しながら多様な体験活動に参加する機会を設ける。			開拓していく。
(5)教職員の指導力・専門性の向上	項目	教育の専門家としての実践的指導力の向上	B	A	(1)研修において地域・保護者との信頼関係を築くことのできる総合的人間力を高める。 (2)よりよい学級経営と授業力の向上をめざし指導方法の工夫や改善を図り、ＰＤＣＡサイクルを確立する。	◎	◎	○タブレット端末の有効利用について研究・研修を行い、日々の学習活動で活用できている。今後は、より有効で効率的な使用を模索していく。 ○人権教育を基盤とした「主体的・対話的な深い学び」を実現するため、向かう方向を明確にしながら取組を進めていく。 ○若手教員は、ＯＪＴにより、実践的なノウハウや知識を身につけることができている。 今後は、指導の情報共有を図り、より一層ＯＪＴを充実していく。
	指標	実践的指導力を向上させるための校内研修が適切に実施されている。						
	項目	学校の教育目標達成のための学校運営・責任体制の整備	A					
	指標	よりよい学校になるためにプロ意識を持ち、目標を掲げて職務・研修に取り組んでいる。						
	項目	ＯＪＴの推進	A					
	指標	互いに連携し学級経営や授業について課題解決するなど学び合う体制ができている。。						
(6)生徒指導の充実	項目	好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A	A	(1)生活指導委員会を毎月定期的に開催し、月目標を振り返り、次月に生かすようにする。 (2)温かい人間関係を築くとともに、問題が発生した場合には、組織として対応できるよう日頃から情報共有と意思統一を図っておく。	◎	◎	○児童アンケート「学校が楽しい」の項目が95％の達成率で充実した学校生活を送っていることがうかがえる。 ○いじめは把握した段階で管理職や生徒指導担当に報告し、情報を共有した上で一体となった指導を行うことを目指していたが、不十分なところがあった。今後は、確実に遂行していけるよう更に意識を高める。 ○不登校傾向、学習や生活上の困難が見られる家庭と諸機関との接続を図り、より有効な対応ができるようにする。 ○いじめアンケートを毎週行うことで、小さなトラブルや児童の悩みを把握しやすくする。
	指標	児童の生活を見つめ直し、好ましい人間関係・豊かな集団生活に向けて適時性のある指導を行っている。						
	項目	生徒指導の機能を生かした授業づくり	A					
	指標	自己決定の場や自己存在感を与える授業、共感的人間関係を育む授業の工夫により、児童の指導能力を育てている。						
	項目	いじめ問題への対応	A					
	指標	児童一人一人の実態を的確に捉え、いじめ対応マニュアル基づき、組織的に指導を行っている。						
(7)心の教育の充実	項目	全教育活動の中での道徳性の育成	A	A	(1)すべての教育活動で豊かな心（道徳心・感性）を培う取組を進める。 (2)教科書以外の副読本や地域教材を活用して道徳授業の充実を図る。 (3)命の大切さ、社会での規律やマナーについては家庭と連携し、道徳的実践を伴う指導に取り組む。	◎	◎	○あいさつや社会規律、マナーについては、道徳をはじめ教育活動全体で指導を行い、豊かな心を育む。また、家庭や地域と連携した取組を強化する。 ○道徳の授業においては、教材内容の理解で終わらず、自分自身の生活を振り返り、「これから自分はどうすればよいのか」を考えることができるようにする。
	指標	教育活動の全領域において道徳性を養うように計画している。						
	項目	道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる取組	A					
	指標	道徳科において、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるため、心に響く授業を心がけている。						
	項目	互いを認め合う人間関係づくり	A					
	指標	お互いのよさを認め合う人間関係づくりに心がけ、道徳的実践力を育成している。						
(8)安心・安全教育の推進	項目	学校安全の徹底と営修繕	A	A	(1)安全点検を毎月行い、危険箇所の早期改善や生活環境の整備に取り組む。 (2)生活安全、交通安全、災害安全に係る指導の充実に努める。 (３)安心・安全な居場所としての学級・学校づくりに努める。	◎	◎	○安全点検が多くの目でできている。小さな危険箇所も市に連絡した上で、修繕を行っていく。 ○登下校の問題が毎年ある。校外児童会、ミニ地区集会だけではなく普段から児童の登下校に注意し、問題が起きた際には、家庭や地域と連携し、その都度適切な指導を行う。
	指標	危機管理マニュアルをもとに、安全点検や安全指導が行われている。						
	項目	学習・生活の場として適正な学習環境の管理整備	A					
	指標	児童によりよい学習・生活環境になるよう、計画的に整備ができている。						
(9)コミュニティ・スクールの推進	項目	家庭や地域への情報発信	A	B	(1)視野の広い学校運営協議会委員と共に開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域・関係諸機関等との連携をさらに充実させる。 (2)情報発信内容の充実とメールシステムによる効果的な情報発信を行う。 (3)学習と関連付けた家庭での読書を家庭と連携して行う。 (4)学校ホームページの定期的な更新と学校の様子を発信する。	◎	◎	○「学校通信」「学年便り」等の発信により、地域・保護者と情報の共有ができた。また、ホームページを毎日更新することで、誰もが学校の様子を分かるようにしている。 ○学校と家庭・地域が一体となって、特色ある学校づくりに邁進する。 ○幼少期の読書習慣確立のため、幼稚園と連携したノーメディア・読書デーを充実させる。 ○読書に親しむことができるように、家庭と連携した取組を工夫して、進めていく。
	指標	学校や学級の教育活動が、学校通信、学年だより、学校ＨＰ等により家庭・地域に理解されている。						
	項目	学校運営協議会を活用した学校経営の推進	A					
	指標	学校運営協議会を適切に開催し、授業参観・行事・オープンスクールにも参加を得て、学校経営に生かしている。						
	項目	家庭と連携した読書習慣の確立と読書指導の充実	B					
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん」「ノーメディア・ノーゲーム」「家庭読書」の習慣を家庭と連携して育てている。						
	項目	学びの連続性をふまえた異校種との連携体制の確立	B					
	指標	連携カリキュラムを意識しながら、幼小・小中連携教育活動に取り組んでいる。						

自己評価における特記事項

評価資料の数値は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。
　４　よくできた　　３　できた　　２　あまりできなかった　　１　できなかった
自己評価資料は、自己点検の平均４～３．５をＡ　３．４～３をＢ　２．９～２．５をＣ　２．４以下をＤとしている。
職務が異なる場合は、評価項目がすべて当てはまるとは限らない。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・間違えることへの羞恥心や恐れを取り除き、安心して自己表現できるようにするための取組
・メディア使用時間の削減、家庭学習や読書時間、睡眠時間を増やし充実させるための学校、家庭、地域との連携強化
・いじめ未然防止のための組織強化・家庭との連携強化
・少規模校の特性を生かしたコミュニケーション力を高める活動の充実
・タブレット端末のさらなる活用と充実
・ＰＴＡ家庭数減少によるＰＴＡ組織の再編
・学習ボランティア勇退による新たな学校ボランティア組織の立ち上げ